

ムネアカオオアリ

中折れした朽木をチェーンソーで倒したらその切り株の空芯から大きなアリがぞろぞろと這い出してきました。場所は澄川森林の C1 区、ギャップ地のボサ除け作業中の出来事でした。デジタル画像には 2015 年 4 月 23 日 13 時 15 分と記録されました。この日は気温が 20°C かくにもなり、暑いと感じるほどでしたのでアリ達の動きも活発でした。帰宅して調べた結果ムネアカオオアリと同定いたしました。森林に棲み、土中ではなく朽木の中に巣をつくります。日本産のアリのなかでは体長が 7~12 mm と大きい方です。アリはハチ目に属します。ハチ



同様にかなり社会性が発達していて、よく知られているミツバチの社会と同じ構造なのです。産卵専門の女王アリ、女王アリと交尾するだけのために出現する雄アリ、大多数の働くだけの産卵しない雌アリとが共同でつくる社会です。このムネアカオオアリはクマゲラの主食だそうで、貴重な天然記念物を支えてくれているのです。このアリの天敵はクマゲラ以外にトゲアリがいるとのことで、



ムネアカオオアリ

図体が一回り小さいトゲアリに狙われたムネアカオオアリは巣に進入されて女王まで殺され殲滅させられるとのこと。トゲアリは進入にさいしてムネアカオオアリに乗りかかってムネアカの体臭を体につけて、易々と進入し殺戮の限りをつくすとのこと。アリの世界にも人類世界同様のせちがらさがあることが悲しいことです。

アリの巣の中はまっ暗闇です。交信手段は化学物質すなわちフェロモンによりますので、トゲアリはムネアカに化学擬態を

することでムネアカになりすますことが出来るのです。右のトゲアリの胴体をご覧ください。胸部分がトゲトゲに覆われています。特に腰に大きな鉤型トゲが二本ありまして、いかにも戦闘的なのです。闘いに特化するように進化したことが形に表れているではありませんか。人間世界にも近年中東地域に出現したイスラム過激派無法者集団がトゲアリのような存在に思えるのでありますなあ。



トゲアリ